

学習内容と到達目標

☞ ①初めて会った人と会話を交わす（お互いの職業や趣味など）。

②第一印象を話す。

前半：[1. INTRODUCTION] ～ [5. PAIR WORK]（初めて会った人との会話）

後半：[6. VOCABULARY] ～ [10. PAIR WORK]（第一印象）

指導のポイント

1. INTRODUCTION 山川さんの親友高木さんが、山川さんを自分の先輩に紹介しているという状況を説明し、3人が何を話しているかを想像させる。その上で、3人1組でロールプレイをさせてみる（この段階ではうまくできずにボロボロになってしまってもかまわない）。

2. LISTENING ①で「○」と「×」の判断した後、②でスクリプトを読ませ、答えを確認するが、ここで会話の内容を全て理解させる必要はない。例えば、以下の部分。

村上：はじめまして。村上です。

山川：はじめまして。山川です。

高木：ね、言ったとおりでしょう？

村上：うん。

山川：え？何が？

高木：ううん、何でもない。

この部分は、恋愛ドラマ好きな学生ならすぐにピンと来るので、教師が学習者の母語に精通している場合や学習者同士で通じる共通言語がある場合などには、なぜ高木さんがこのように言ったのかを考えさせるのもいいが、そうでない場合は、必ずしもそこまで話を広げる必要はない。ここで最低限理解してもらいたいことは、初めて会った人に（関心を持って）職業や趣味などを聞く時、「～んですか」という表現を使うという点。村上さんと高木さんの間で事前にどんな会話がなされていたかや、村上さんがなぜ山川さんに誕生日を聞いたかなどについては、後々このテキストの会話を読み返した時に気づいてくれれば十分。

3. FOCUS ①のイラストは、巻末の文法解説でも説明しているように、「～んですか」を YES/NO 疑問で使うのは、既知の事柄を敢えて確認する場合であることを示している（目の前でアラビア語を話しているのだから、アラビア語が話せるのはわかりきっているのだが、余りの驚きに思わず確認してしまっている）。

②は単純な活用の練習。③は「～んですか」を適切にか使えるかどうかの確認（5と7の質問には「～んですか」は不要。説明を求めているわけではないので）。

4. LISTENING ①では会話の内容に注意を向けさせ、②で言語形式に注意を向けさせる。

5. PAIR WORK

[1.INTRODUCTION]のモデル会話を参考に学習者にロールプレイをさせる。ただ、このモデル会話には1課のモデル会話に見られるような「フレーム」と呼べるようなものがないため、ここでは「日本にいつ来たか」や「何を勉強しているか」などの質問を「～んですか」を使ってできればOK。

6. VOCABULARY

人の性格を表す語彙はVol.1の7課で、様態の「～そう」も21課で学習済みなので、ここではそれらを復習しながら、適宜語彙を増やすようにする。

7. LISTENING

①では2人の話から互いの第一印象を表す語彙が拾えればOK。②では①の答えを確認すると同時に、第一印象以外の内容にも注意を向けさせる。

8. FOCUS

①も②も単純な活用の練習。ただし、「言いました」と「言っていました」、「聞きました」と「聞いていました」([7.LISTENING]の村上さんの発言)の違いには注意。

9. LISTENING

3人の会話を聞き、質問に答えられればOK。

10. PAIR WORK

グループで自由に話させる。